

Focus On



◆ここにもオリンパス

「バーチャルスライドシステムVS120」のお客様にインタビューしました。

学生たちのノート作りに変化あり！ 新しいものを取り入れ、仕掛けを作り、 「現場の作業をシンプルに」

新潟大学大学院歯学総合研究科
口腔病理学分野教授 田沼 順一 先生

(記事へ→)



新潟大学大学院歯学総合研究科
口腔病理学分野教授 田沼 順一 先生

10年前から実習に使用

バーチャルスライドシステムを使った病理実習も、今年で10年となりました。取り入れたきっかけは、やはり標本の問題です。顕微鏡を覗いて実習する場合、例えば学生が100名いたら、100枚前後の標本を作る必要があります。ひとつの組織ブロックを数マイクロメートル単位で薄く切り出しても、1枚目と100枚目とで1センチ近く場所が違ってしまったり、最後の方には目標とする細胞がないことも。私が学生の頃は、渡された標本に課題の病変が見当たらないと、前の方の人に標本を借りていくことがあり不便でした。

標本は時間とともに脱色してしまうので、手間と時間をかけて作成した100枚も、10年経たずに作り直さなければなりません。しかも数少ない貴重な資料は保存ができません。そこで当時、病理の遠隔診断用に導入していたバーチャルスライドを実習に応用することになりました。病理の先生は顕微鏡を覗きますが、学生たちがそこにたどり着くには、まず国家試験に受からなくてはなりません。試験は顕微鏡を覗きながらではなく、重要な部分をピックアップした画像を見ながらマークシートに回答するだけなので、問題なく取り入れることができました。

タブレット端末で効率的なノート作り



実習の様子

これまで3つのメーカーの製品を使用してきましたが、今年4月からはオリンパスのバーチャルスライドシステムVS120を導入しています。VS120を選んだ理由は、タブレット端末との連携性がよかったから。



ノート・メモアプリを使い、詳細を書き込んでいく

大画面を皆で見ながら手で細胞をスケッチしている大学も多いのですが、デジタル化が進んだ現代では、学生たちが自分のタブレットを持ち込むのが日常となっています。今はWiFi設備も整っているため、一人ひとりがタブレットからシステムにアクセスし、課題に取り組める環境の方が便利なのです。

VS120は、タブレット上で画像の一部を簡単にキャプチャーできる場所がよいですね。アプリを使って画像の上にデジタルペンで「これは脂肪肝、ここは血管」などと書き込み、自分なりのノートを作って提出する学生が増えてきました。この方法であれば、手で細胞をスケッチする手間もなく、家で簡単にやり直すこともできます。VS120はただ綺麗な画像が見られるだけでなく、こんな風に学生たちが効率的にノート作りができるところがポイントだと思います。オリンパスはこの部分をもっと売り込んでほしいですね(笑)。

新しいものに投資する理由

国立大学の限られた予算の中で、VS120のような高価な装置を導入するのは大変なことです。しかし、人材不足の今、無理に人を雇うよりは、こうした新しいものに投資をして、さまざまな現場の作業をシンプルにする仕掛け作りを進めていくことが大事だと思います。



タブレット端末上に課題の画像を表示



取材でのひとこま。源川医科器械・山下翔平さん、ライフ営業・早坂徹さん、垣谷絃之さんと。

そう言った意味では、もっとたくさんの方々が使おうようになってほしいと思います。もう少し簡素化したリーズナブルなもの、そして使い方の提案力があれば、もっと広がっていくのではないのでしょうか。ぜひともよいものを作ってください。期待しています。

応用が利くからこそ提案力が大事

さて、最近の口腔病理の話題として、堀ちえみさんの舌がんの公表があります。今年の春は、全国の歯医者さんや大学病院が、患者さんの対応でパンク状態となりました。口腔がんの検査は、以前は組織の切除が必要でしたが、今は口腔内細胞診といって、口腔内の細胞をブラシですり取るだけで簡単にできるんですよ。やはり早期発見には経過観察より検査が大事。現在、歯科医師会とコラボレーションし、口腔がん検診のアプリと共に、検診に必要な一連の作業をよりスムーズにするための仕掛け作りを行っています。その中には、バーチャルスライドに結果を取り込むというものも。先生が患者さんに説明するときに、ただ言葉で伝えるより、標本を見せながらの方が理解の手助けになりますよね。



「大きな問題なく便利に使えています」と先生